

今年の7月で71歳となり、立派な高齢者となりました。生活面では一昨年3月を持って、第2の人生として勤めた民間会社を後進に託し、卒業しました。70歳過ぎたら基本的に若い人たちのサポートに回ろうと思っています。今回このような機会をいただき、次の技術者の皆さんに、私が仕事上役立った3つのことをお伝えしたいと思います。

1つ目は、「技術者に対する信頼」です。まず信頼される“高い技術の習得を目指す”ということはもちろんです。加えて“決してその技術を享受する人々を裏切らない、欺かない”ということです。これは、技術者倫理にも通じることだと思います。当然、技術者は、常日頃から自らの技術を磨きます。しかし、高に高い技術をもっていても人を欺く技術であってはならないということです。これこそ技術者としての原点であると確信しています。

2つ目は、PM理論という組織管理手法です。Pはパフォーマンス、当然、仕事をする上で成果、実績を求められます。しかし、一定の年齢になると、成果を上げることに加え、M：メンテナンス 組織を継続するマネジメント力が求められます。経験から言えば、実務担当者の頃は、多くの成果、実績をあげることに努力します。しかし、管理職になると、それに加え組織をどう継続発展させていくかという役割が加わります。端的に言えば、次の組織を担う人材をどう育て、次の時代につないでいくかということです。組織には多様な能力、価値観、性格をもつ多くの若い技術者がいます。それら多彩な人材に、それぞれにあった仕事を与え、その仕事を見守り、サポートし最大の成果をあげながら、次の時代を担う人材として育てていかなければなりません。そのためには、辛抱強く彼ら彼女らを見て、適

切にサポートし、育てる必要があります、相当の「我慢」と「忍耐」と「努力」が必要になります。

3つ目は“ファンクショナルアプローチ”です。これはアメリカのGE（ゼネラルエレクトリック）社が1947年に開発した価値工学です。これは端的に言いますと「私たちがおこなうことには意味・本質があり、それを理解し目的達成に向けて行動する」ということです。私たちの周りには、法律をはじめ、様々な制度や仕組みがあります。これらには真の目的があり、それは究極的には「人を幸せにする」ことだと思います。さもすると手順を踏むことや掲げた数値目標を達成することが目的化され、真の目的が見失われます。しかし、きちんとその意味・本質を理解し行動することにより、「人を幸せにする」ことができるかと確信しています。

今ある制度や仕組みの多くは、戦後の人口増加を前提とした時代につくられたものです。現在、私たちの暮らしは、一定程度の便利さを実現しました。しかし、私たちを取り巻く社会環境は人口減少、高齢化と大きく変化しています。これまでの成功体験に基づくやりかたでは、これからの課題を解決することが非常に難しくなってきました。人口減少、高齢化をただマイナスにとらえているだけでは現在抱える問題課題を解決できません。今こそ、その法律、制度や仕組みの本質を捉え、人々を幸せにする発想の転換が必要な時代だと思います。また、高齢者は「終わった世代」ではなく、これまでの経験や知恵をもとに何かを伝え、現役世代を支えることができる世代でもであると確信しています。

私自身も残った人生に充実感（高齢者でも社会の役に立つんだという）を求め、残りの人生を送りたいなと思う今日この頃です。